

保育原理

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための科目である（DP1）。また、「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるための科目である（DP5）。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

保育の意義及び目的について理解したうえで、保育に関する法令及び制度を理解し、また、保育所保育指針における保育の基本について理解する。また、保育の現状と課題について理解する。さらに、保育の思想と歴史の変遷について理解する。

到達目標

保育者として求められる専門的知識・技術を修得し、また、「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになることを目標として以下のことについて理解する。

1. 保育の意義及び目的について理解する。
2. 保育に関する法令及び制度を理解する。
3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。
5. 保育の現状と課題について理解する。

各回の内容

1. 保育の理念と概念について
2. 子どもの最善の利益と保育について
3. 子ども家庭福祉と保育について
4. 保育の社会的役割と責任について
5. 保育に関する法令及び制度について
6. 保育所保育指針における保育の基本について
(1) 保育所保育指針
7. 保育所保育指針における保育の基本について
(2) 保育所保育に関する基本原則
8. 保育所保育指針における保育の基本について
(3) 保育における養護
9. 保育所保育指針における保育の基本について
(4) 保育の目標
10. 保育所保育指針における保育の基本について
(5) 保育の内容
11. 保育所保育指針における保育の基本について
(6) 保育の環境・方法
12. 保育所保育指針における保育の基本について
(7) 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環
13. 日本の保育の思想と歴史について
14. 諸外国の保育の思想と歴史について
15. 日本の保育および諸外国の保育の現状と課題について
16. 試験

保育原理

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じて確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

講義を中心とするが、理解を深めるためにグループワークを通して意見交換や課題の検討なども行う。

また、グループワークでの成果を発表する機会を設ける。

面接授業を基本とするが、一部遠隔授業を行う。

評価方法

授業の振り返り(リアクションペーパー、確認テスト)30%、試験70%

確認テストは採点后に返却する。試験の解答は掲示する。

教科書

汐見稔幸 監修 『保育所保育指針ハンドブック』学研プラス

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』フレーベル館

参考文献

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館

こども家庭福祉

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための科目である（DP1）。また、保育者として多様な人々と協働する必要性を理解するための科目である（DP4）。さらに、「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるための科目でもある（DP5）。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。また、子どもの人権擁護について理解する。以上の基本的なことを理解した上で、子ども家庭福祉の制度や実施体系等について、現状と課題について理解する。さらに、子ども家庭福祉の動向と展望についても理解する。

到達目標

保育者として求められる専門的知識・技術を修得し、また、保育者として多様な人々と協働する必要性を理解すること、さらに、「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになることを目標として以下のことについて理解する。

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 子どもの人権擁護について理解する。
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

各回の内容

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について
(1) 子ども家庭福祉の理念と概念、(2) 子ども家庭福祉の歴史の変遷、(3) 現代社会と子ども家庭福祉
2. 子どもの人権擁護について
(1) 子どもの人権擁護の歴史の変遷、(2) 児童の権利に関する条約、(3) 子どもの人権擁護と現代社会における課題
3. 子ども家庭福祉の制度と法体系について
4. 子ども家庭福祉の実施体系について
5. 児童福祉施設について
6. 子ども家庭福祉の専門職について
7. 子ども家庭福祉の現状と課題について
(1) 少子化と地域子育て支援
8. 子ども家庭福祉の現状と課題について
(2) 母子保健について、子どもの健全育成
9. 子ども家庭福祉の現状と課題について
(3) 多様な保育ニーズへの対応
10. 子ども家庭福祉の現状と課題について
(4) 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止
11. 子ども家庭福祉の現状と課題について
(5) 社会的養護
12. 子ども家庭福祉の現状と課題について
(6) 障がいのある子どもへの対応
13. 子ども家庭福祉の現状と課題について
(7) 少年非行等への対応
14. 子ども家庭福祉の現状と課題について
(8) 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応
15. 子ども家庭福祉の動向と展望について
16. 試験

こども家庭福祉

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じて確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

講義を中心とするが、理解を深めるためにグループワークを通して意見交換や課題の検討なども行う。

また、グループワークでの成果を発表する機会を設ける。

評価方法

授業の振り返り(リアクションペーパー、確認テスト)30%、試験70%

確認テストは採点后に返却する。試験の解答は掲示する。

教科書

相澤譲治・井村圭壯編著『児童家庭福祉の理論と制度』勁草書房、2011年

参考文献

その都度紹介する。

保育基礎演習

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための科目であり（DP1）、保育者として多様な人々と共同する必要性を理解できるようになるための（DP4）専門科目である。

担当教員	狩野奈緒子・長谷川美香
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

保育実践の基礎について保育参加観察での実践を振り返りながら学ぶ。乳幼児とのかかわる中での気づきや疑問、葛藤をVTR記録を見ながら話し合い、共有する中で考えあう機会を重ねる。
実習記録の書き方を、参加観察の中のエピソードを取り上げながら学ぶ。

到達目標

保育実践の基礎について、保育参加観察を通して、学び理解する。
実習記録を書くにあたっての視点や、書き方について実践を通して理解する。

各回の内容

1. ガイダンス
2. 子どもとのかかわり
- 参加観察の必要性と学び方、マナーなどについて -
3. 親と子の広場、さくらっこ広場について
- スライド、VTRを通して、子どもの姿を見る
4. 保育所の保育について
- 保育所保育の基本と参加観察の方法 -
5. 参加観察の中での気づき
- 子どもとのかかわりからその意味を読み取り、記録する意味 -
6. 発達と遊びの変化
- 一人ひとりの発達経過を継続的に見ていく意味 -
7. 子どもとのかかわりから学ぶこと1
- 参加観察のエピソードの書き方を学ぶ
8. 子どもとのかかわりから学ぶこと2
- 参加観察の記録を読み合い、カンファレンスをする
9. 子どもとのかかわりから学ぶこと3
- 参加観察のエピソードを読み、考察を深める
10. 保育者と子どもとのかかわり
- 参加観察の中での保育者の姿を考える
11. 観察記録の書き方1
- エピソードを使ったカンファレンス1 -
12. 観察記録の書き方2
- エピソードを使ったカンファレンス2 -
13. 観察記録の書き方3
- エピソードを使ったカンファレンス3 -
14. 参加観察からの気づきを話し合う
- OSTでテーマを探してグループワークを行う
15. 参加観察からの話し合い発表とまとめ
- グループワークのまとめと発表による共有

保育基礎演習

準備学習（予習・復習等）

親と子の広場、さくらっこ広場の記録を読む

授業で紹介した参考文献を読み、今後学び続けたい自己の課題を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・「さくらっこ広場」の動画、スライド保育通信を見ながら、観察や、子ども理解の視点について学び、実習記録の形式に従って記録する
- ・遠隔授業（オンデマンド方式）を行うことがある

評価方法

保育観察記録30%
課題レポート70%

教科書

対話から生まれる乳幼児の学びの物語 子ども主体の保育の実践と環境 大豆生田啓友編著 Gakken

参考文献

その都度紹介する

こどもと健康

科目のねらい

本科目は、年齢による子どもの心身の発達について理解し（DP1）、子どもが健やかに成長するための環境や保育者の役割について、考え、理解する。（DP2）その上で、子どもの最善の利益について考え続ける必要性を理解する（DP5）ための専門科目である。

担当教員	堺 秋彦
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース1年生
時間数	8
単位数	1

授業の概要

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導法にも関連していることについて理解する。

到達目標

- (1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。
 - 1) 乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。
 - 2) 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。
- (2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。
 - 1) 乳幼児期の体の発達の特徴を説明できる。
 - 2) 乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。
- (3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。
 - 1) 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。
 - 2) 幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。
 - 3) 危険に関してリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。
- (4) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。
 - 1) 乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。
 - 2) 幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。
 - 3) 日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。

こどもと健康

各回の内容

-
1. 乳幼児期の健康課題 - 健康の定義と乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活習慣と健康 -

 2. 乳幼児の身体の発達の特徴 - 乳幼児期の身体的発達の特徴、生理的機能の発達 -

 3. 乳幼児期の生活習慣の形成 - 乳幼児期の生活習慣（食事、睡眠、着脱衣、清潔、排泄）の獲得及び生活リズムの形成とその意義 -

 4. 幼児の安全教育と危険（リスクとハザード） - 子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性和安全管理 -

 5. 幼児期の怪我や事故の特徴と対処の方法、応急処置・病気の理解と予防 - 幼児期に起こりやすい怪我の特徴と声のかけ方や応急処置の基礎及び病気の予防 -

 6. 乳幼児期の運動発達の特徴 - 調整力の発達と「多様な動き」の意味、及び両者の関係と意義 -

 7. 日常生活における運動 - 社会の変化と生活の中の動きの経験、またその配慮の基本的な考え方 -

 8. 遊びとしての運動 - 子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方—
筆記試験
-

こどもと健康

準備学習（予習・復習等）

予習、復習として幼稚園教育要領解説（序章・1章・2章《健康》）までを熟読する。

- ・予習として、幼児の「発達段階」を調べる。
- ・予習、復習として、「親と子の広場」に積極的に参加し、子どもと関わりながら、各年齢の発達や個々の発達について考察する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・スライドや動画を使用し、子どもの発達段階を理解する場を設定する。
- ・事例を用いて、グループ討議をし、対話的に考える場を設定する。

評価方法

各授業の発表・振り返りレポート（30%）
講義内容に関する筆記試験（70%）

教科書

事例で学ぶ保育内容 領域「健康」（萌文書林）

参考文献

幼児期の運動遊び

こどもと人間関係

科目のねらい

保育者として求められる専門的知識・技能を修得し、子どもや家庭・地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につける

担当教員	奥田 美由紀
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

授業の概要

関係発達論的視点について学び、保育場面の映像資料を題材に、他者との関係の中で乳幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。

到達目標

- ・人と関わる力の育ちがその後続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。
- ・幼児期の遊びや生活の中で育まれる人と関わる力を具体的な子どもの姿から説明できる。

各回の内容

1. 子どもを取り巻く現代社会の状況
2. 大人のかかわりが子どもの心身に及ぼす影響
3. 3歳未満児における人間関係の発達 - 愛着から自律へのプロセス -
4. 子どもが環境とかかわりながら主体的に生きていく姿 - 「ジブンデ」から始まる自立心の育ち - (幼児期に育みたい資質・能力)
5. 子どもが環境とかかわりながら主体的に生きていく姿 - 目標を共有しやり遂げようとする協同性の育ち - (幼児期に育みたい資質・能力)
6. 子どもが環境とかかわりながら主体的に生きていく姿 - 人としてどうありたいかという道徳性ときまりの必要性への気づき - (幼児期に育みたい資質・能力)
7. 子どもが環境とかかわりながら主体的に生きていく姿 - 幼児に経験させたい地域の人とかかわり - (幼児期に育みたい資質・能力)
8. 人とかかわる力が及ぼす学びに向かう力・人間性への影響 - 乳幼児期から学童期以降の学びへ -

こどもと人間関係

準備学習（予習・復習等）

幼稚園教育要領解説・保育所保育指針の領域「人間関係」を読んでおくこと
「親と子の広場」に自主的に参加し、子どもの遊びや人とのかかわりを観察してみること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

実践事例を分析し、幼稚園教育要領・保育所保育指針等の領域「人間関係」の視点で解釈していく
人とかかわる力の基礎について、具体的な場面をイメージしながら理解を深める
遠隔授業（オンデマンド型）を行うことがある

評価方法

演習シート（40%）
最終レポート（60%）

教科書

幼稚園教育要領解説（平成30年）（フレーベル館）

参考文献

保育所保育指針解説書（平成29年告示）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年告示）

こどもと環境

科目のねらい

こどもや家庭及び地域について理解し(DP2)、保育者として求められる専門的知識・技術を習得する(DP1)ための科目である。

担当教員	齋藤美智子
授業形態	演習
学期	1年前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

授業の概要

現代のこどもを取り巻く環境と現代的課題、こどもと身近な環境との関わりの発達について学ぶ。

到達目標

こどもを取り巻く環境の重要性を認識し、保育者として求められる専門的知識・技術を習得する。

各回の内容

1. 現代社会の乳幼児を取り巻く環境と、その課題（物的・人的・安全等）
2. 乳幼児期の発達における環境との関わり
3. 乳幼児期・児童期の認知的発達
4. 乳幼児の自然との関わり
5. 乳幼児の自然との関わり
6. 環境構成の実際
7. 環境構成の実際
8. まとめ

こどもと環境

準備学習（予習・復習等）

配布された資料や自然と関わった保育実践記録を読み返し、保育現場での実践に触れる。
「親と子の広場」に参加し、子どもの発達の実際に触れ、子ども理解を深める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

遠隔授業（オンデマンド型）を行うことがある

グループワークを通して、主体的・対話的な学びとしていく。

評価方法

振り返りシート40%、課題レポート60%

教科書

幼稚園教育要領解説（平成29年告示）

参考文献

保育所保育指針解説（平成29年告示）、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年告示）

こどもと言葉

科目のねらい

本科目は保育者として求められる専門的知識、技能を習得するための教科であり（DP1）、子ども家庭福祉及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけるための（DP2）専門科目である。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育1年
時間数	7.5
単位数	1

授業の概要

ことばの発達過程を理解し、その過程を支えるかかわりを理解するために、乳幼児の有能さと身体的関与、保育者との関係性についてVTRなど活用して学修する。ことばの発達を中心とした幼児の内面理解に着眼した学修を進めるために、保育者のドキュメンテーション記録など読み込みながら授業を進める。短大運営子育て支援広場におけるスライドやVTR記録なども活用し、参加観察への意欲を高めるとともに、対話的な授業を展開する。

到達目標

- (1) ことばの機能を理解し、乳幼児のことばの発達と獲得の過程を理解する。
- (2) ことばの獲得の過程を支えるための保育者のかかわりの在り方や、豊かな表現や想像する楽しさを広げるための具体的な方法について考える。

各回の内容

1. ことばの意義と機能を考える
2. 乳幼児の有能さとことばの発達を支えるもの
3. ことばの発達をどう理解するか～ことばとしての身体表現～
4. 生活や遊びの「かかわり」の中で育つことば～学びの物語の考え方～
5. 保育者との関係性の中で育つことば～0・1歳児クラスのドキュメンテーションより～
6. 想像力を広げる主体的な遊びの展開～4・5歳児クラスのドキュメンテーションより～
7. 保育の中で育つ乳幼児のことば～子育て広場の子ども達のことばの育ちを考える～
8. ことばの発達と学びの意味を考える～グループワークでの対話～

こどもと言葉

準備学習（予習・復習等）

短大子育て支援広場「親と子の広場」や「さくらっ広場」に進んで参加し、親子と関わりながら、こどもの言葉やその発達について考えること。
授業で紹介した文献を、読むこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・各回において、グループワーク（小グループ含む）で話し合う場面を設定する
- ・授業者の運営する子育て支援広場のスライド、VTRなどを活用し、子ども理解を深める
- ・オンデマンド方式（スライド配信・office365使用の双方向）での遠隔授業を行うことがある

評価方法

- (1) 保育マップ作成と考察（小レポート 40%）
- (2) グループワークの考察（最終課題レポート 60%）

教科書

最新保育講座10 保育内容「言葉」（柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編、ミネルバ書房）

参考文献

対話から生まれる乳幼児の学びの物語 子ども主体の保育の実践と環境（大豆生田啓友、学研）
学びの物語の保育実践（大宮勇雄、ひとなる書房）

こどもと表現

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）、こどもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身に付ける（DP2）ための専門科目である。

担当教員	松村 万里子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×8回
単位数	1

授業の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針により領域「表現」のねらいと内容を理解し、保育者として幼児の発達に応じた表現遊びを行うための知識・技能について体験を通して学ぶ。

到達目標

保育者を目指す学生が子どもの表現活動がどのようなものか理解し、表現遊びや環境構成など専門的事項について音楽的表現の側面から幼児期の表現活動を援助するための知識・技能・表現力を身につける。

各回の内容

1. 領域「表現」のねらいと内容。屋外で風を感じる(内的表現と外的表現)。1週間の音日記
2. 乳児とうた（音楽的発達の過程）。手遊び、指遊び
3. 幼児とうた（言葉・音楽的発達の過程）。コミュニケーションとゲーム
4. 身体表現とうた。1週間の音日記の振り返り
5. 言葉とうたの創作
6. リズム遊び
7. 音楽あそび（伴奏含む）
8. 発表レポートの解説と講評

こどもと表現

準備学習（予習・復習等）

多くの子どものうたに触れ、実際に歌い、演奏し、動くことを通して、どのようにして子ども達と音楽の楽しい感動体験を共有すればよいか学びましょう。特に歌や音楽や演奏については、歌う練習をすること（毎回30分程度）。発表については、レポートを課し、その内容を評価の対象とするため、自らの考察をしっかり記述すること。提出されたレポートについては、全般的な、解説・評価を行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

領域「表現」のねらいや内容を意識しながら、体験的、実践的な授業を展開する。特に、子どもたちと音楽の感動体験を共有することを目的とした、歌唱の活動を毎回授業に取り入れる。発表については、レポートを課して、振り返りを行う。

評価方法

毎回のレポート50%、発表の評価や取り組み50%

教科書

『手遊び指遊び』ドレミ楽譜出版 吉野幸雄ほか

参考文献

幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

保育内容（健康）の指導法

科目のねらい

本科目は、5領域の「健康」のねらいを理解したうえで、子どもが、心身共に健やかに成長するために必要な環境や保育者の役割について考え、理解し（DP1）、指導法を身に付ける（DP1）ための科目であり、また、子どもの健やかな成長のために必要なコミュニケーション力について理解し（DP3）、保育者として多様な人々と協働する必要性を理解する（DP4）ための専門科目である。

担当教員	堺 秋彦
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年生
時間数	15
単位数	2

授業の概要

幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。

特に、乳幼児期の神経系の発達に伴う情緒的発達や運動発達の特徴を理解し、その上で、乳幼児期の望ましい生活習慣の在り方を考え、理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。

到達目標

幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。

領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。

指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。

模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。

領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

各回の内容

1. 保育における「健康」とは - 幼稚園教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容の理解 -
2. 基本的な生活習慣の形成を支える援助（情報機器及び教材を活用した援助法を含む） - 食事、排泄、着脱衣、清潔の習慣形成を支える環境構成と援助（特別な配慮を要する子どもへの援助を含む） -
3. 健康管理と安全能力を育む援助（情報機器及び教材を活用した援助法を含む） - 健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助（特別な配慮を要する子どもへの援助を含む） -
4. 乳幼児期の心と体の発達についての理解と発達の特徴を踏まえた環境構成と援助 - 神経系の発達の特徴、ピアジェ、ワロン、ガラフューの発達論 -
5. 健康な心と体を育む保育の視点と留意点【保育現場における動画視聴】 - 健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面の実際と指導方法 -
6. 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案1・教材研究1）【動画視聴】【情報機器使用】 - 健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した指導計画と準備 -
7. 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育1） - 幼児の動機付けや意欲などを配慮した健康指導、安全指導の在り方 -
8. 健康な心と体を育む保育の評価と改善1 - 幼児理解と保育の視点を基盤とした評価 - （省察）
9. 多様な動きの経験を促す環境構成と援助 - 基本的動作の獲得、調整力の向上に向けた遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成と援助の方法 -
10. 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案2）【動画視聴】【情報機器使用】 - 運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導 -
11. 健康な心と体を育む保育の構想（教材研究2）【情報機器使用】 - 運動遊び指導の実際と視点 -
12. 健康な心と体を育む保育の構想（模擬保育2） - 幼児の興味関心に基づく自発的活動としての運動遊びの在り方 -
13. 健康な心と体を育む保育の評価と改善【情報機器使用～パワーポイントによる発表～】 - 幼児理解と保育の視点を基盤とした評価 - （省察）
14. 幼児期に育まれる健康な心と体と小学校の生活や学習で生かされる力 - 「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」と小学校教科とのつながり -
15. 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践 - 幼児を取り巻く現代的課題を踏まえた健康な心と体を育む教育の在り方 -

保育内容（健康）の指導法

準備学習（予習・復習等）

予習、復習として幼稚園教育要領解説（序章・1章・2章《健康》）までを熟読する。

- ・予習として、幼児の「発達段階」を調べる。
- ・予習として、前期の「体育実技」で行った「運動あそび」を振り返りながら、基本的動作について調べる。
- ・予習、復習として、「親と子の広場」に積極的に参加し、子どもと関わりながら、各年齢の発達や個々の発達について考察する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・保育現場での子どものスライドや動画を使用する場を設定する。
- ・グループで、運動遊びの指導案を作成し、模擬保育を行い、省察する場を設定する。
- ・事例を用いて、グループで対話的に討議し、考える場を設定する。

評価方法

- 各授業における振り返り（30％）
- 指導計画の立案（20％）
- 模擬保育の実践（20％）
- 講義内容に関するレポート（30％）

教科書

- 幼稚園教育要領解説（平成29年告示）
- 事例で学ぶ保育内容 領域「健康」

参考文献

- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年告示）
- 保育所保育指針（平成29年告示）

保育内容（人間関係）の指導法

科目のねらい

保育者として求められる専門的知識・技能を修得するために、保育実践から子ども・家庭・地域について理解を深める
「子どもの最善の利益」を考え続けることができる

担当教員	奥田 美由紀
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。

到達目標

- ・領域「人間関係」のねらい及び内容を具体的な場面において理解できる。
- ・幼児の発達や学びの過程を理解し、育ちの見通しを持って保育を構想することができる。

各回の内容

1. 幼稚園教育要領における領域「人間関係」の視点
2. 安心して園生活を送るための個々への丁寧な関わり - 「親と子の広場」での観察に向けて -
3. 子どもの姿や行動からその心情を読み取る（保育場面のDVDを視聴して記録を書く）
4. 事例 「自分でできることは自分です」とは - 甘えと甘やかしの違いについて -
5. 事例 遊びの中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づき考える援助の在り方
6. 事例 イメージや目的を共有し、協同する中での育ち - 劇遊びの中で -
7. 事例 きまりの必要性を感じ守ろうとする自己統制力の育ち
8. 【模擬保育】5歳児のプロジェクト型保育を想定し、情報機器を活用して保育場面の映像資料を使いドキュメンテーションをグループで作成し、子ども同士が話し合う場面での指導法を学ぶ（「子どもの心情」の読み取り）
9. 【模擬保育】5歳児のプロジェクト型保育を想定し、情報機器を活用して保育場面の映像資料を使いドキュメンテーションをグループで作成し、子ども同士が話し合う場面での指導法を学ぶ（「子ども同士の関係性」の理解）
10. 幼児期に経験させたい地域の人との関わりを考える
11. 幼児期に経験させたい地域の人との関わりを考える（演習：子どもを取り巻く同心円マップの作成による教材研究）
12. 乳幼児期の発達と学童期以降の生活や育ちを見通した「今」を捉える
13. 現在の幼児の姿の理解に基づいた指導案の作成 - 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭において -
14. 保育の振り返りを次の実践に活かすための評価の観点（模擬保育と省察）
15. 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題と取り組み・まとめ

保育内容（人間関係）の指導法

準備学習（予習・復習等）

「親と子の広場」に自主的に参加し、子どもとかがわってみること。その際、記録しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

親と子の広場に参加して観察したことや体験したことについて記録し、子どもの内面を読み取り、領域「人間関係」のねらいと内容の視点から考察する

実践事例をもとに、人とのかかわりの中で、子どもが何を体験して何を学んでいるのか、その際の保育者の指導・援助についてどのように考えるのかを領域「人間関係」の視点から理解を深める

評価方法

【課題1】親と子の広場の記録と子どもの内面や育ちの読み取り（50%）

【課題2】現在の幼児の姿の理解に基づいた指導案の作成と振り返り（50%）

教科書

事例で読み解く子ども理解 萌文書林（2020出版）

参考文献

平成29年告示幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
保育におけるドキュメンテーションの活用 ななみ書房（2016）

保育内容（環境）の指導法

科目のねらい

「子どもの最善の利益」を考慮した(DP5)環境について、保育場面で思考し、判断し、実践された保育実践から学び(DP2)、保育者として求められる専門的知識・技術を習得する(DP1)科目である。

担当教員	齋藤 美智子
授業形態	演習
学期	1年後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

領域「環境」に関わる、子どもの発達に即した具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身につける。 模擬保育、指導案作成や教材研究では、グループ討議やICT利活用を試みる。

到達目標

子どもを取り巻く環境の重要性を認識し、子どもにとってよりよい環境について学びを深める。
保育者として求められる専門的知識・技術を習得する。

各回の内容

1. 幼児教育の基本と保育内容「環境」 保育内容の基本構造と領域「環境」のねらい、内容について
2. 子どもの発達と領域「環境」 幼児期にふさわしい環境と実際
3. 領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園内活動） 園内で行われる幼児の遊びや活動の事例から
4. 領域「環境」の展開の実際（園外活動） 園外で行われる身近な施設や情報に関わる活動の事例から
5. 領域「環境」の展開の実際（さんぽ活動） さんぽ活動のねらいを考えあい、深める。
6. 領域「環境」の展開の実際（さんぽ活動） さんぽ活動の事例から学ぶ。
7. 領域「環境」の展開の実際（ICT機器を利用したさんぽマップ作成） さんぽ活動の体験
8. 領域「環境」の展開の実際（ICT機器を利用したさんぽマップ作成） さんぽ活動の体験を記録する
9. 自然に親しみ、植物に触れる保育の実際（教材研究 指導案作成）
10. 自然に親しみ、植物に触れる保育の実際（模擬保育） ICT機器を利用した指導案作成 野菜の栽培
11. 自然に親しみ、植物に触れる保育の実際 栽培活動の振り返り、改善
12. 身近な素材を用いた保育の実際（教材研究 ICT機器を利用した指導案作成） 指導案作成
13. 身近な素材を用いた保育の実際（教材研究 実施） 実践の省察、改善（模擬保育後の振り返り）
14. 身近な素材を用いた保育の実際（遊具制作 振り返り） 実践の省察、改善（模擬保育後の振り返り）
15. 環境に関わる現代的課題（グループごとにICT機器を利用してまとめて発表する） ESD、インクルーシブ保育等

保育内容（環境）の指導法

準備学習（予習・復習等）

配布された資料や自然と関わった保育実践記録を読み返し、保育現場での実践に触れる。
「親と子の広場」に参加し、子どもの発達の実際に触れ、子ども理解を深める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

遠隔授業（オンデマンド型）を行うことがある

グループワークを通して、主体的・対話的な深い学びとしていく。

評価方法

振り返りシート40%、課題レポート60%

教科書

「それでも、さくらは咲く」かもがわ出版

参考文献

幼稚園教育要領解説（平成29年告示）、保育所保育指針解説（平成29年告示）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年告示）

保育内容（言葉）の指導法

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）、こどもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけるための（DP2）専門科目である。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

領域「言葉」に関して、具体的な事例を取り上げながら、ことばの育ちの過程について学ぶ。保育の中で出会う子どもとのかかわりの中で、言葉の力を育むための保育内容やかかわりの在り方について、観点を挙げて考察する。具体的には、短大子育て支援広場（さくらっこ広場）への参加観察のエピソード記録、スライドやVTR記録を基に、言葉やコミュニケーションに関するエピソードについて対話しながら考察する。また、絵本の読み合いを通して、子どもとの共感的なやり取りや、保育の展開について学び、指導計画・実践・評価・改善について体験的に考える。

到達目標

- (1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領に示された保育内容「言葉」のねらい及び内容を理解する。
- (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を理解する。

各回の内容

1. 保育の基本と領域「言葉」について考える～幼稚園教育要領より～
2. 領域「言葉」と保育のねらいと内容～幼稚園教育要領と保育所保育指針の整合性～
3. 保育の場面から領域「言葉」に関する保育者の役割について考える～さくらっこ広場のスライド・DVDを視聴して考える～
4. 領域「言葉」と保育の実際1～さくらっこ広場の1歳児のスライドとエピソード記録を活用した対話～
5. 領域「言葉」と保育の実際2～さくらっこ広場の3歳児のスライドとエピソード記録を活用した対話～
6. 領域「言葉」と保育の実際3～さくらっこ広場の5歳児と小学生のスライドとエピソード記録を活用した対話～
7. 領域「言葉」と保育の実際4～ICTを活用した保育通信を作成する：写真のドキュメンテーションを保育通信に生かす方法～
8. 環境構成と領域「言葉」～子どもを映し出すポートフォリオを保育実践の中に生かす方法：ポートフォリオから子どもとの対話を生み出す～
9. 指導計画と領域「言葉」～ことばを育む保育の計画・実践・評価・改善～
10. 子どもの文化財の活用と保育実践～絵本や物語を読み合う意味～
11. 絵本読みあいの保育実践を考える（0歳児）～絵本との出会いから生まれる喜び
12. 絵本読みあいの保育実践を考える（1、2歳児）～グループで絵本の読み合いの実践
13. 絵本の読み合いから広がる子どもたちの遊び（3歳児）～指導計画（案）の作成
14. 物語の世界や言葉や文字の興味の広がり（3、4、5歳児）～模擬保育の実践
15. 実践を通して保育の計画・実践・評価・改善について考える

保育内容（言葉）の指導法

準備学習（予習・復習等）

短大子育て広場「親と子の広場」「さくらっこ広場」に積極的に参加する。
授業で紹介した文献を読むこと。
絵本の読み合いに使用する絵本を、主体的に探し、読み合いに参加すること。
模擬保育や指導案の作成など、グループの共同の学びに積極的に参加すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・各回にグループワーク（小グループを含む）を設定し、対話的な授業展開を行う
- ・授業者の運営する子育て広場のスライドやVTR、保育通信を活用し、子どもの姿を具体的に理解できるようになる手立てとする

評価方法

さくらっこ広場参加観察記録・ドキュメンテーション型通信を通じた対話の考察レポート（50%）
絵本読みあいの指導計画の作成・実践・評価・改善を通じた対話と考察に関するレポート（50%）

教科書

最新保育講座10 保育内容「言葉」（柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美、ミネルバ書房）
絵本から広がる遊びの世界（樋口正春・仲本美央、鳳鳴舎）

参考文献

幼稚園教育要領解説書（平成29年告示）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書（平成29年告示）、保育所保育指針解説書（平成29年告示）
新現代の保育1 保育におけるドキュメンテーションの活用（請川滋大・高橋健介・相馬靖明 編著）ななみ書房
子どもの育ちを共有できるアルバムポートフォリオ入門（森真理）小学館

保育内容（表現）の指導法

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）、こどもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけるための（DP2）専門科目である。

担当教員	松村 万里子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

子どもの感性、意欲、創造性の育ちについて音楽の側面から考えていく。子どもと関わる時、保育者自身が豊かな感性を持ち、表現豊かであることが期待されることから、歌う、踊るなどの経験を通して表現方法と援助の観点を解説する。さらに、音楽表現活動のうちオペレッタを題材として、その創作発表活動を通じて教材の活用を含めた具体的な技術について解説する。

到達目標

乳幼児の音楽表現の育ちを援助する指導法に関する知識と技能を身につける。
 感性豊かな保育者の基礎として感じたことを自分なりの言葉や音で表現できる。
 領域「表現」の特性と子どもの発達を踏まえた保育を構想することができる。
 乳幼児期の体験と小学校における教科との繋がりについて説明できる。

各回の内容

1. 領域「表現」のねらいと内容および音楽表現と小学校教育との繋がり
2. ダルクローズの音楽教育法・身体表現と教材との関連（ICT教材含む）
3. あそびと音楽（1）劇あそび 2歳児「大きなかぶ」のグループ活動の指導案立案
4. コダーイメソードの音楽教育法 子どもの発達のためのアプローチ
5. 楽器遊びを中心として オルフ楽器を応用し手作り楽器を作成
6. 手作り楽器との器楽合奏の指導
7. あそびと音楽（2）ピアノの効果的使用指導長調、短調、速度、リズム、強弱の変化
8. あそびと音楽（3）保育の構想 「友達ほしいな おおかみ君」
9. あそびと音楽（4）保育の模擬実践 「友達ほしいな おおかみ君」
10. あそびと音楽（5）パネルシアター等の教材研究「秋を表現」
11. あそびと音楽（6）パネルシアター等の模擬保育「秋を表現」
12. オペレッタ劇あそび（1）台本(指導案)作成、提出
13. オペレッタ劇あそび（2）各グループ上演する 情報機器(ICT)の活用
14. 表現活動の実践をとして保育の場における表現指導について振り返る
15. レポートのまとめと講評

保育内容（表現）の指導法

準備学習（予習・復習等）

テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。毎回の授業の内容について復習を行い理解を深めること。
（グループワーク・模擬授業等）グループワークへの参加姿勢や模擬授業の発表内容について評価のポイントを含めフィードバックを行う。
発表をビデオを用いて全体活動の振り返りを行い、フィードバックは映像確認後話し合う。
特に歌や演奏については、歌う練習をすること（毎回30分程度）
発表については、レポートを課し、その内容を評価の対象とするため、自らの考察をしっかりと記述すること。提出されたレポートについては全体的な解説・講評を行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

グループワーク・模擬授業を行い、発表において共有する授業を展開する。
発表をビデオを用いて記録し、映像でのフィードバックを行い、共有する。

評価方法

個授業への取り組みや発表 50%、レポート 50%

教科書

都度資料を紹介する。

参考文献

幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育解説

保育内容総論

科目のねらい

保育者として求められる専門的知識・技術を総合的に理解・習得し(DP1)、「子どもの最善の利益」を考え続けることができる(DP5)ための科目である。

担当教員	齋藤 美智子
授業形態	演習
学期	1年前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

保育内容全般を概観し、保育者の子ども理解の過程や、保育者に求められる姿を学ぶ。
ICT活用、グループ討議

到達目標

今日の保育の現状や課題について理解を深める。

各回の内容

1. 幼児期の教育・保育の基本 法的位置づけ、園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解する
2. 保育内容の理解1 幼稚園教育要領 幼稚園教育要領と幼稚園の全体像をつかむ
3. 保育内容の理解2 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 指針、教育・保育要領の全体像をつかむ
4. 保育の全体構造と保育内容（グループで討議し、ICT機器を活用し、構造図を作る） 幼児教育における5領域のねらい及び内容のつながりをつかむ
5. 養護に関わる保育内容 養護のねらいをつかむ
6. 保育内容の5領域 5領域の狙いを深める
7. 保育の1日の流れ（幼稚園） 幼稚園の1日の流れをつかむ（グループで討議し、ICT機器を活用し、日課表を作る）
8. 保育の1日の流れ（保育所等） 保育所等の1日の流れをつかむ（グループで討議し、ICT機器を活用し、日課表を作る）
9. 遊びを中心とした保育と行事 行事の意味、位置づけについてつかむ
10. 支援を要する子ども理解とクラス運営 支援を要する子どもの生活・遊びと保育者の役割や環境構成を理解する
11. 乳児期・幼児期・学童期の育ちのつながり 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とかかわりをつかむ
12. 子どもの育ちと保育内容（乳児） 視聴覚教材を活用しながら、教材研究し、保育の実際をつかむ
13. 子どもの育ちと保育内容（幼児） 視聴覚教材を活用しながら、教材研究し保育の実際をつかむ
14. 保育内容の展開 実際の指導案をICT機器を利用して作成し、指導法、評価について学ぶ
15. 模擬保育をグループで実施する 保育のすすめ方を実践で学ぶ

保育内容総論

準備学習（予習・復習等）

親と子の広場やボランティア活動に参加し積極的に子どもと関わる。
必要な部分は、テキストを読み、授業に備える。
授業で紹介した参考文献を読み、より深く学び自己の理解を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

遠隔授業（オンデマンド型）を行うことがある

ICT活用、グループワークを通して主体的・対話的な学びとしていく。

評価方法

振り返りレポート40%、課題レポート60%

教科書

保育内容総論第2版（中央法規）

参考文献

幼稚園教育要領解説（平成29年告示）、保育所保育指針解説（平成29年告示）、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年告示）

保育者論

科目のねらい

こどもや家庭及び地域について理解し保育実践から保育者としての思考力・判断力・表現力を学ぶ姿勢を身につける(DP2)科目である。保育者として求められる知識・技能(DP1)及び主体性・多様性・協働性(DP4、DP5)を学ぶ科目である。

担当教員	齋藤 美智子
授業形態	講義
学期	1年後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

保育者の役割およびその専門性について考察し、保育関係者間の連携・協働、資質向上について理解する。

到達目標

保育者の役割と倫理について理解し、専門性を深め、保育関係者間の連携・協働のできる保育者の養成をめざす。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 保育者の専門性
3. 保育者の制度的位置づけ
4. 保育者の資質・能力
5. 養護及び教育の一体的展開
6. 家庭との連携と保護者に対する支援
7. 保育の質の向上とは
8. 保育における自治体や関係機関等との連携・協働
9. 専門職間及び専門機関との連携・協働
10. 地域における自治体や関係機関等との連携・協働
11. 資質向上に関する組織的取り組み
12. 保育者の専門性の向上とキャリア形成
13. 組織とリーダーシップ
14. 保育者の原動力とは
15. まとめ

保育者論

準備学習（予習・復習等）

親と子の広場に参加し、子どもと関わったり、保育者の子どもとの関わり方を観察して学ぶ。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

遠隔授業（オンデマンド型）を行うことがある。

具体的な保育実践、事例を活用することでより主体的な学びとなるようにする。

評価方法

振り返りシート40% 課題レポート60%

教科書

「どの子にもあーたのしかった！の毎日を」ひとなる書房

参考文献

幼稚園教育要領解説（平成29年告示） 保育所保育指針解説（平成29年告示）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年告示）

特別支援保育

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的な知識・技術の習得を目指し（DP1）、こどもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけ（DP2）、子どもの最善の利益を考え続けることができる力を身につけるため（DP5）の専門科目である。

担当教員	狩野奈緒子・坂本真一
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育1年
時間数	90分×15
単位数	2

授業の概要

ライフステージを通じた多様な子どもや家庭への支援の在り方について考える。
各障害の特性について理解し、個別的配慮の在り方について事例を通して考える。
発達障害をはじめ、多様な子どもの特性や家庭支援については、保育者との関係構築も含めて事例検討のグループワークを行い、課題意識を持って学びを深める。

到達目標

特別な配慮を要する多様な子どもの特性について理解し、一人ひとりに合った配慮や支援についての考え方を理解する。個別の教育的ニーズに基づき、配慮を伴う個別支援計画や個別指導計画の在り方について理解する。

各回の内容

1. ライフステージを通じた多様な子どもや家庭への支援について（担当：狩野奈緒子）
2. 特別支援を要する子どもとの出会い～保護者の受容、保育者の在り方～（担当：狩野奈緒子）
3. 障害を持つ子どもと保護者を取り巻く環境～「光とともに」のドラマから考える～（担当：狩野奈緒子）
4. 障害児保育の基本を考える～二分脊椎の子どもの事例を基に話し合う～（担当：狩野奈緒子）
5. 指導計画の作成と評価（担当：狩野奈緒子）
6. 障害の特徴を知る～知的障害～（担当：狩野奈緒子）
7. 障害の特徴を知る～自閉症スペクトラム障害～（担当：狩野奈緒子）
8. 障害の特徴を知る～発達障害：LD・ADHD～（担当：狩野奈緒子）
9. 障害の特徴を知る～病虚弱～（担当：狩野奈緒子）
10. 障害の特徴を知る～聴覚障害～（担当：狩野奈緒子）
11. 障害の特徴を知る～言語障害～（担当：狩野奈緒子）
12. 障害の特徴を知る～肢体不自由～（担当：狩野奈緒子）
13. 障害児以外の特別な支援を要する子どもや家庭への支援を考える～事例検討～（担当：坂本真一）
14. 障害児以外の特別な支援を要する子どもや家庭への支援を考える～発表と共有・考察～（担当：坂本真一）
15. 特別な支援を要する子どもと家庭に関する小学校への移行支援（担当：狩野奈緒子）

特別支援保育

準備学習（予習・復習等）

授業で紹介した参考文献を読むこと

メディア等で紹介される、乳幼児や児童の特別なニーズに関する課題に問題意識を持ち、自ら調べること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・特別な支援を要する子どものニーズについて、障がい特性など基本的知識と共に、具体的な事例を通じたカンファレンスを設定して、考え合う場を設定した授業展開を行う。
- ・担当教員（狩野）の発達相談支援センター等での相談支援の実務経験を基に、特別支援を要する子どもの保護者に対する相談支援についての課題を提起する

評価方法

- 「光とともに」の感想（小レポート） 10%
- 多様な子どもへの支援について考える：グループワークと考察（レポート） 40%
- 特別支援保育を学んで考えたこと（課題レポート） 50%

教科書

ライフステージを見通した障害児の保育・教育（小林徹・栗山宜夫、みらい）

参考文献

光とともに（DVD）

教育課程・保育の計画と評価

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識と技術を修得し（DP1）、保育者として多様な人々と協働する力を身につけ（DP4）、子どもの最善の利益について考え続けられる力を身につけるための（DP5）専門教科である。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

保育の計画・教育課程の意味や作成方法についての基本的理論を理解するために、長期、短期の計画の実際を園や地域の実態に合わせて作成する事例を通して考える。

各年齢の保育の計画・教育課程に作成と評価の考え方についての理論を学び、子育て広場のドキュメンテーションを基に計画と評価の在り方について学ぶ。

保育の計画を見直し、改善した先進的事例の文献を読み、テーマを設定してグループワークを行う。年齢ごとの日案から週案への連続性を学び、実習園を想定した日案の作成を試みる。

到達目標

- (1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領を基本とし、各園で編成される教育課程についての意義や編成の方法を理解する
- (2) 各園の実情に合わせたカリキュラムマネジメントを行うことの意義を理解する。

各回の内容

1. 教育課程・保育の基本と計画
2. 指導計画の種類と役割 1～長期計画と短期計画の意味～
3. 指導計画の種類と役割 2～幼稚園実習の実習園における1週間の計画～
4. 保育における計画の考え方～0、1、2歳児を中心に～
5. 保育における計画の考え方～0、1、2歳児の指導計画の特徴～
6. 保育の計画と評価～環境に働きかける子どもたち（さくらっこ広場のドキュメンテーション）
7. 教育課程・保育における計画の考え方～3、4、5歳児の教育課程を中心に～
8. 教育課程・保育の計画の見直しの実践事例の講読～保育者主導の保育の見直し～
9. 教育課程・保育の計画の見直し、カリキュラムマネジメントについてグループワークを行う
10. 教育課程・保育の計画についてのグループワークを行う
11. グループワークの発表と共有の考察
12. 計画作成の実際～4歳児の子どもの実態から指導計画を考える～（幼稚園）
13. 計画作成の実際～2歳児の子どもの実態から指導計画を考える～（保育所）
14. 小学校の計画との関連と接続
15. 教育課程・保育の計画の作成の実際のみとめ

教育課程・保育の計画と評価

準備学習（予習・復習等）

教科書をよく読むこと。
グループワークなど共同学習の場面に積極的に参加すること。
実習園記録を参考に、自己の課題を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・子育て支援広場の事例などスライドや保育通信で活用する
- ・子ども主体の保育へ改善した先行事例についての文献を購読し、グループワークで課題を明確にしながら発表して考察を深める

評価方法

保育の計画の見直しに関するグループワークと考察（小レポート）50%
実習園を想定した指導計画の作成と考察（課題レポート）50%

教科書

田中亨胤・三宅茂夫編 教育・保育カリキュラム論（株）みらい（2019）

参考文献

鈴木まひろ 久保健太 著 育ちあいの場づくり論 ひとなる書房

保育実習指導

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得する（DP1）、子どもや家庭及び地域について理解し保育実践から学ぶ姿勢を身につける（DP2）、保育に必要なコミュニケーション力を身につける（DP3）、保育者として協働する必要性を理解する（DP4）、「子どもの最善の利益」を考え続ける態度を身につける（DP5）ための、総合的な科目である。

担当教員	長谷川・坂本・齋藤
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年・2年
時間数	90分×15回（1年後期より2年前期まで、15回以上行う）
単位数	2

授業の概要

- ・保育実習（保育所）に臨むにあたり、実習の目的や内容、方法、保育士の役割や乳幼児の発達成長にかかわる援助のあり方に関する基本的事項などを理解する。
- ・保育実習（施設）について、その目的や内容、方法、施設における保育士等の役割や利用者にかかわる援助のあり方に関する基本的事項を理解する。
- ・実習日誌、指導案の書き方について学ぶ。
- ・保育実習（保育所）、保育実習（施設）それぞれの実習後は、実習で体験し学んだことを整理して確認し、今後の課題を明確化する。

到達目標

- （1）実習の意義や目的、内容を理解する。
- （2）子どもや利用者の人権、最善の利益の考慮、守秘義務について理解する。
- （3）保育・支援計画、実践、記録、評価について理解する。
- （4）保育所や施設における保育士の役割、援助の在り方について理解する。
- （5）実習で体験し学んだことを整理して確認し、自己の課題を明確にできる。

各回の内容

1. 保育所・施設についての基本的な理解、実習の概要
2. 保育所・施設についての基本的な理解、実習の概要
3. 保育所・施設についての基本的な理解、実習の概要
4. 実習の目的・内容・方法の理解
5. 実習の目的・内容・方法の理解
6. 実習の目的・内容・方法の理解
7. 子ども・利用者の人権と最善の利益、守秘義務について
8. 実習に向けての自己課題の明確化
9. 実習日誌の書き方についての指導
10. 指導案の書き方の指導
11. 実習に際しての留意事項
12. 実習の体験の発表と共有化
13. 実習の自己評価と課題の発見、個別指導
14. 実習の自己評価と課題の発見、個別指導
15. 実習の自己評価と課題の発見、個別指導
16. 各実習の事前事後に上記の指導を行う。

保育実習指導

準備学習（予習・復習等）

- ・配布資料や教科書を熟読し、実習の意義や観察の視点、記録の書き方などについて理解に努める。
- ・授業時間外でも、実習に向けて、教材研究や記録の練習などに取り組む。
- ・実習事前訪問（オリエンテーション）で指示があった場合は、その内容に合わせて準備を行う。
- ・実習後は、今後の課題・目標を基に、次の実習に向けて準備を行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・指導案作成や教材研究、実習の振り返り等、対話する場を設ける。

評価方法

課題レポート50%（返却は、掲示等で連絡する）、振り返り30%（授業内で返却）、提出物20%（指導案や教材等、授業内で返却）

教科書

- 1：「保育実習の手引き」、福島県保育者養成校連絡会編
- 2：「福島県保育実習施設」、福島県保育者養成校連絡会編
- 3：「保育所保育指針解説書」、厚生労働省編、フレーベル館
- 4：「ことばと表現力を育む児童文化」、川勝泰介ら著、萌文書林

参考文献

その都度、紹介する。

保育実習（保育所）

科目のねらい

保育者として求められる専門的知識・技術を修得する（DP1）、子どもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につける（DP2）、保育に必要なコミュニケーション力を身につける（DP3）、保育者として協働する必要性を理解する（DP4）、「子どもの最善の利益」を考え続ける態度を身につける（DP5）のための、総合的な科目（実習）である。

担当教員	長谷川・坂本・狩野・堺・奥田・山下
授業形態	実習
学期	集中
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	10日間
単位数	2

授業の概要

- ・保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深める。
- ・既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。
- ・保育所の役割や機能を理解し、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について、体験的に学びを深める。

到達目標

- （1）保育所の役割や機能を具体的に理解する。
- （2）子どもの観察や関わりを通し、子ども理解を深める。
- （3）保育の計画、観察、記録、自己評価などについて具体的に理解する。
- （4）子どもの保育や保護者支援について、既習の教科内容も踏まえながら、総合的に学ぶ。
- （5）保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

各回の内容

1. 保育所の役割や機能を理解する。
2. 保育士の役割や職業倫理、援助について理解する。
3. 保育所での子どもの生活について理解する。
4. 保育所保育指針に基づいた保育の展開について学ぶ。
5. 観察や記録を通して、子ども理解を深める。
6. 子どもの発達について理解する。
7. 子どもへの援助、関わりについて学ぶ。
8. 保育の計画に基づいた保育内容について理解する。
9. 遊びや生活、健康や安全を考慮した保育環境について学ぶ。
10. 記録に基づき、自己を省察、評価する。
11. 職員間の連携について学ぶ。
12. 10日間、上記の内容について実習を行う。詳細については、実習先によって異なる。

保育実習（保育所）

準備学習（予習・復習等）

- ・各自の実習目標に向け、教材研究や日誌についてなど、準備を進める。
- ・実習指導の授業時間外も教科書や配布資料を読み、実習への理解を深める。
- ・実習事前訪問（オリエンテーション）で指示があった場合は、その内容に合った準備をする。
- ・実習後は、今後の課題を明確にし、その課題が達成できるよう、努める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・保育現場において、実践的に学ぶ。

評価方法

実習先の評価70%（評価票を基に、個人面談を行う）、実習日誌の記録内容や実習時の様子等30%（記録内容やその他の実習の様子については、必要に応じて実習後に個別指導したり、全体に指導が必要な内容については、授業内で周知したりする。）

教科書

- 1：「保育実習の手引き」、福島県保育者養成校連絡会編
- 2：「保育所保育指針解説書」、厚生労働省編、フレーベル館

参考文献

その都度紹介する。

乳児保育

科目のねらい

本科は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）子どもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけ（DP2）また、保育に必要なコミュニケーション力を身につけ（DP3）「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるための（DP5）専門科目である。

担当教員	山下敦子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	15
単位数	2

授業の概要

乳幼児保育の意義・目的と歴史の変遷および役割等について理解する。保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域との関係機関との連携について理解する

到達目標

1. 乳幼児保育の意義・目的と歴史の変遷および役割等について理解できる。
2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる。
3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できる。
4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域との関係機関との連携について理解できる。

各回の内容

1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷
2. 乳児保育の役割と機能
3. 乳児保育における養護および教
4. 乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
5. 保育所における乳児保育
6. 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
7. 家庭的保育等における乳児保育
8. 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
9. 3歳未満児の生活と環境
10. 3歳未満児の遊びと環境
11. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
12. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり、保育における配慮
13. 3歳未満児の発育・発達を踏まえ保育における配慮
14. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義
15. 乳児保育における連携・協働。自治体や地域との関係機関等との連携・協働（地域の外部講師による講義）

乳児保育

準備学習（予習・復習等）

1. 教科書の次回講義内容の単元を読み予習に努める
2. 講義後は内容の復習を行い、具体的な理解に努める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・教科書や事例をもとに学習し、またグループで共有し学びを深める。
- ・地域の外部講師による特別講義（実務家をゲスト講師として招聘予定）
- ・担当教員の自治体の保健センター・保健所保健師の実務経験をもとに、乳児の観察や接し方、保護者支援に関する理解を深める一助とする。

評価方法

小テストにて講義内容の確認を行う。（80％）

レポート課題（10％）

学習目標に関する自己評価（10％）最終講義時に学習目標に関する自己点検用紙を配布し評価する。

教科書

はじめて学ぶ乳児保育
志村聡子 編著者
同文書院

参考文献

乳児保育

科目のねらい

本科は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）子どもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけ（DP2）また、保育に必要なコミュニケーション力を身につけ（DP3）「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるための（DP5）専門科目である

担当教員	山下敦子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	7.5
単位数	1

授業の概要

3歳未満時の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考えについて理解する。養護および教育の一体性を踏まえ、3歳児未満の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について具体的に理解する。
乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。

到達目標

1. 3歳未満時の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考えについて理解できる。
2. 養護および教育の一体性を踏まえ、3歳児未満の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について具体的に理解できる。
3. 乳児保育における配慮の実際について具体的に理解できる。
4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解できる。

各回の内容

1. 乳児保育の基本・子どもと保育士等との関係性（こどもCAPふくしまワークショップ）
2. 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり。子どもの主体性の尊重と自己の育ち
3. 子どもの体験と学びの芽生え
4. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
5. 子どもの1日の生活の流れと保育の環境
6. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための援助
7. 乳児保育における計画の実際
8. まとめ

乳児保育

準備学習（予習・復習等）

1. 次回講義内容の教科書の単元を読み予習に努める。
2. 教員が配布する資料を読んでくる。
3. 講義後は内容の復習を行い、具体的な理解に努める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・教科書や事例をもとに学習し、またグループで共有し学びを深める。
- ・地域の外部講師による特別講義（こどもの権利についての分野実務家をゲスト講師として招聘予定）
- ・担当教員の自治体の保健センター・保健所保健師の実務経験をもとに、乳児の観察や接し方、保護者支援に関する理解を深める一助とする。

評価方法

確認の小テスト（70点）

演習課題についての自己評価（30点）演習の自己点検用紙を配布し自己評価する。

教科書

はじめて学ぶ乳児保育
志村聡子 編著者
同文書院

参考文献

講義時に紹介する

こどもの保健（講義）

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）、こどもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけ（DP2）、「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるための（DP5）専門科目である。

担当教員	山下敦子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	15
単位数	2

授業の概要

保育者は、人間の体の仕組みや機能について理解し、子どもの健康的な発育や成長を支援する。子どもの疾病予防についてまた、疾病時の対応について学ぶ。子ども自身が成長と共に自分の身体を守り大切にできるように年齢に応じ伝えていく。

到達目標

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。
4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。

各回の内容

1. 子どもの心身の健康と保健の意義
2. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
3. 地域における保健活動と子どもの虐待
4. 子どもの身体的発育・発達と保健
5. 身体発育及び運動機能の発達と保健
6. 子どもの生理機能の発達と保健
7. 子どもの生理機能の発達と保健
8. 子どもの生理機能の発達と保健
9. 子どもの心身の健康状態とその把握
10. 健康状態の観察・心身の不調等の早期発見
11. 保護者との情報共有について
12. 子どもの疾病の予防及び適切な対応
13. 子どもに多い疾患・主な疾病の特徴 特別講師 小児科医 市川陽子先生
14. 子どもに多い疾患・主な疾病の特徴 特別講師 小児科医 市川陽子先生
15. 子どもの疾病の予防と適切な対応 まとめ

こどもの保健（講義）

準備学習（予習・復習等）

1. 講義受講の前に予習として学習を進める
2. 講義受講後は、復習に努める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・教科書や事例をもとに学習し、またグループで共有し学びを深める。
- ・地域の外部講師による特別講義（実務家をゲスト講師として招聘予定）
- ・担当教員の自治体の保健センター・保健所保健師の実務経験をもとに、乳児の観察や接し方、保護者支援に関する理解を深める一助とする。

評価方法

1. 最終講義日に、知識の確認を行う。（70％）
2. 学習意欲等について自己評価する（20％）講義終了時に自己評価用紙を配布し自己評価する。
3. 講義中の受講態度・意欲関心（10％）振り返りシートに学びが記載されているかを評価する。

教科書

子どもの保健・実習 すこやかな育ちをサポートするために
兼松百合子 他著 同文書院

参考文献

講義にて都度紹介する

こどもと表現

科目のねらい

本科目は保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための(DP1)専門科目である。

担当教員	高田真紀子他
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

授業の概要

この授業では本校の特徴である個人レッスンを通して基礎的なテクニックを伝授し、「表現」の指導に関する幼児の感性や創造性を豊かにする様々な弾き歌いを実践的に学び、幼児に対する表現活動を広げるための知識、技能、能力を身に付ける。

到達目標

- (1) 音符や休符、様々な記号の名称、楽典の意味を理解する。
- (2) 楽譜を正しく読み、正確に演奏することができる。
- (3) 現場ですぐに対応できるように多くのレパートリーを作る。
- (4) 弾き歌いによる豊かな音楽表現ができる。(5) 練習計画を立て、それを確実に実行する。

各回の内容

1. オリエンテーション
楽典を通して音楽を学ぶ意味について
2. 歌唱とピアノ実技1
保育で活用できる「春の歌」を表現する技術と方法
3. 夏の歌
楽譜の基本的な用語を「夏の歌」で確認する
4. 秋の歌
リズムと拍子を「秋の歌」で感じる
5. 冬の歌
記号の名称を「冬の歌」で確認する
6. 行事とあいさつの歌
幼児の発達に合わせた「行事の歌」「あいさつの歌」を考え演奏する
7. 弾き歌いの発表に向けての課題の表現演習
8. 個人発表

こどもと表現

準備学習（予習・復習等）

- (1) 自らの力で解決できない問題が生じたら、必ず担当教員に質問すること。また、本学図書館も積極的に活用する。
- (2) ピアノ練習室などの施設を積極的に利用し、個人練習にも力を入れる。

ピアノは毎日の継続練習が必要です。授業には十分に練習を積んでから望むようにいたしましょう。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- (1) 保育の現場で必要とされる童謡の弾き歌いを基礎から習得する。
- (2) 各クラスを4グループに分け、指導者4名と1対1の個人レッスンを原則とした授業を行う。
- (3) それぞれのレベルに応じてテキストの中から指定された曲を弾き歌いで演奏する。
- (4) 講師の実務経験（音楽療法士・リトミック上級指導者・福島大学非常勤講師・生涯学習センター講師）を基に、保育現場で実践的に活用できる具体的方法について、指導する。

評価方法

- (1) 「こどものうた100」の中から選んだ1曲を弾き歌いで演奏する。 90%
豊かな音楽表現が弾き歌いでできたかを評価する。
- (2) 授業内評価。 10%
意欲を持って練習した結果、楽譜を正確に読み演奏できるようになっているかを評価する。

教科書

こどものうた100（チャイルド本社）

参考文献

ジュニアクラスの楽典問題集（ドレミ出版社）

保育表現技術(音楽表現)

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための(DP1)専門教科である。

担当教員	高田真紀子他
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

この授業では本校の特徴である個人レッスンを通して基礎的なテクニックを伝授し、「表現」の指導に関する幼児の感性や創造性を豊かにする様々な弾き歌いを実践的に学び、幼児に対する表現活動を広げるための知識、技能、能力を身に付ける。

到達目標

- (1) 音符や休符、様々な記号の名称、楽典の意味を理解する。
- (2) 楽譜を正しく読み、正確に演奏することができる。
- (3) 現場ですぐに対応できるように多くのレパートリーを作る。
- (4) 弾き歌いによる豊かな音楽表現ができる。(5) 練習計画を立て、それを確実に実行する。

各回の内容

1. オリエンテーションとピアノ表現の基礎
7月の歌(1)(2)を通して5指の基本練習を行う
2. 7月の歌(3)(4)和音
7月の歌を通して主要3和音で伴奏できるように練習を行う
3. 8月の歌(1)(2)コード伴奏法
8月の歌を通してコードで伴奏をつける
4. 8月の歌(3)(4)コード伴奏法
8月の歌を通してコードの転回形を工夫する
5. 夏の歌・9月の歌(1)片手伴奏法
夏の歌・9月の歌を通して左手の伴奏形を考える
6. 9月の歌(2)(3)片手伴奏法
9月の歌を通して歌に合う伴奏とリズムを工夫する
7. 9月の歌(4)(5)両手伴奏法
9月の歌を通して両手伴奏を考え工夫する
8. 10月の歌(1)(2)両手伴奏法
10月の歌を通して両手伴奏とそれに合うリズムを考える
9. 10月の歌(3)(4)旋律への伴奏付け
10月の歌を通して旋律へ自分で考えた伴奏を付ける
10. 11月の歌(1)(2)歌唱支援のための前奏や後奏の工夫
11月の歌を通して前奏や後奏を付ける
11. 11月の歌(3)(4)子どもが歌いやすい伴奏の工夫
11月の歌を通して曲のイメージに合う伴奏を考える
12. 12月の歌(1)(2) 各種拍子による曲の演奏法の違いを学ぶ
12月の歌を通して拍子感を身に付ける
13. 12月の歌(3)(4)前奏や後奏の創作
12月の歌を通して前奏と後奏を付ける
14. 1月の歌(1)(2)初見演奏の練習
1月の歌を通して初見演奏の練習をする
15. まとめ
16. 個人発表

保育表現技術(音楽表現)

準備学習（予習・復習等）

- (1) それぞれに出された課題曲を完全に弾き歌いできるように練習する。
- (2) ピアノ練習室を積極的に活用して練習する。

ピアノは毎日の継続練習が必要です。授業には十分に練習を積んでから望むようにいたしましょう。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- (1) 保育の現場で必要とされる童謡の弾き歌いを基礎から習得する。
- (2) 各クラスを4グループに分け、指導者4名と1対1の個人レッスンを原則とした授業を行う。
- (3) それぞれのレベルに応じてテキストの中から指定された曲を弾き歌いで演奏する。
- (4) 講師の実務経験（音楽療法士・リトミック上級指導者・福島大学非常勤講師・生涯学習センター講師）を基に、保育現場で実践的に活用できる具体的方法について、指導する。

評価方法

- (1) 「こどものうた100」「続こどものうた200」の中から選んだ1曲を弾き歌いで演奏する。 90%
弾き歌いによる豊かな音楽表現ができているかを評価する。
- (2) 授業内評価。 10%
楽典の意味を理解し、練習の結果、楽譜を正確に読み正しく演奏できているかを評価する。

教科書

こどものうた100（チャイルド社）
続こどものうた200（チャイルド社）

参考文献

ジュニアクラスの楽典集（ドレミ出版社）

保育表現技術(造形表現)

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための(DP1)、専門科目である。

担当教員	穴戸 美喜子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	子ども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

保育の現場で必要な造形表現の基礎である、色彩の効果、描画材料・素材の特徴、紙や粘土などの立体表現の知識や技術を作品の制作(教材研究として)を通して身に付ける。

到達目標

- (1) 保育者として、造形活動を通じた楽しさ、面白さを味わい、豊かな感性や想像力を修得する。
- (2) 豊かな感性や想像力を身に付けるために、必要な材料や道具等に関する具体的な知識や技能を修得する。

各回の内容

1. オリエンテーション、色を楽しむ
色の性質を理解し、整理することで、効果的な配色など色の魅力を知る。
2. 造形表現技法体験(平面-色鉛筆)
色鉛筆表現の可能性を理解し、その良さを生かした「大切な人へのメッセージカード」制作の構想を練る。
3. 造形表現技法体験(平面-色鉛筆)
効果的な配色を考え、色鉛筆表現の良さを生かした「大切な人へのメッセージカード」の制作をする。
4. 造形表現技法体験(平面-色鉛筆)
効果的な配色を考え、色鉛筆表現の良さを生かした「大切な人へのメッセージカード」の制作をすすめ完成させる。
5. 造形表現技法体験(平面-クレヨン)
クレヨン表現の良さを理解し、クリスマスを迎える華やぐ気持ちを表す「クリスマス飾り」(お願いサンタさん)の制作の構想を練る。
6. 造形表現技法体験(平面-クレヨン)
効果的な配色を考え、クレヨン表現の良さを生かし、「クリスマス飾り」(お願いサンタさん)の制作をする。
7. 造形表現技法体験(平面-クレヨン)
効果的な配色を考え、クレヨン表現の良さを生かし、「クリスマス飾り」(お願いサンタさん)の制作をすすめ、完成させる。
8. 造形表現技法体験(立体-紙の造形)
紙による立体表現の基礎を理解し、「飛び出すカード」制作の構想を練る。
9. 造形表現技法体験(立体-紙の造形)
「飛び出すカード」のデザインと飛び出す構造の関係を試作などを通して、確認し構想を固め、制作をすすめる。
10. 造形表現技法体験(立体-紙の造形)
「飛び出すカード」の制作をすすめる。
11. 造形表現技法体験(立体-紙の造形)
「飛び出すカード」の制作をすすめ、完成させる。
12. 造形表現技法体験(立体-粘土の造形)
粘土の性質を理解し、その表現の良さを生かす立体表現「ステキなケーキ屋さん」制作の構想を練る。
13. 造形表現技法体験(立体-粘土の造形)
粘土の扱い方、道具の効果的な使い方を理解し、「ステキなケーキ屋さん」の制作をすすめる。
14. 造形表現技法体験(立体-粘土の造形)
「ステキなケーキ屋さん」の制作をすすめ、完成させる。
15. 造形表現技法体験(モダンテクニック)
画用紙上でインクと水がにじむ造形をつくり、そのにじみの美しさを生かして、画面を切り取り、構成をして台紙に貼って作品を制作する。

保育表現技術(造形表現)

準備学習（予習・復習等）

事前に題材のアイディアスケッチや資料収集をする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・一人一人がそれぞれの題材の造形的ねらいにそって構想をし、作品を制作することを通して体験的に学ぶ形態をとる。
- ・中学校美術科教員経験を通して、子どもと向き合い、その感性、想像力、創造力の豊かさを感じ、育むために必要な知識や技術を具体的に指導する。

評価方法

課題制作の構想 5%
課題作品評価 90%、
制作の意欲 5%

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。